

## ウェビングマップから出てきた“ジオパーク”（函南町立桑村小学校）

函南町立桑村小学校では、5年生の総合的な学習の時間のテーマを「自然、環境」としています。はじめに子どもたちの内部情報を引き出すために、ウェビングマップを作っていくと、「ジオパーク」のことが出てきました。また、4月に、伊豆半島ジオパークが世界ジオパークに認定されたこともあり、子どもたちはジオパークに興味をもちました。

そこで、伊豆半島ジオパーク推進協議会の方のお力をお借りしました。

出前授業では、まず、噴火について学びました。噴火の様子を映像で見た子どもたちは噴火の怖さを感じているようでした。その後の噴火実験では、グループごとに実験道具を準備していただき、噴火の原因は泡であることを、炭酸飲料を使ってわかりやすく教えていただきました。さらに、火砕流の様子を演習実験していただくなど、2時間ではありましたが、子どもたちは、最後まで意欲的に学習することができました。

また、噴火による火砕流があったために、学校周辺が平らな土地になったこと、平らな土地になったから、スイカやお米づくりができるようになったことなど、身の回りのことも合わせながらお話いただき、大地の恵みについても理解を深めることができました。

（文：函南町立桑村小学校 鈴木）



どんな地形が見えるかな？



### ふたつの火山実験。

### なにが観察できますか？

★担任の鈴木先生は理科教員の研修会でジオパーク（ジオサイト巡り・火山実験等の講習）を学び、授業に取り入れてみたいと感じたそうです。



## 伊東市立宇佐美小学校図書館・ジオパークコーナー

伊東市は市内の小学校、10校全校（5年または6年：学校により異なります）でジオ学習を導入しています。ジオ学習担当が2年目、3年目、という先生が増えてきました。

宇佐美小学校は、5年生の総合学習でジオ学習を実施しています。担当は昨年に続いて2回目という橋本先生。今年度の総合のテーマは「環境・自然」。

事前授業をおこなった6月は、班ごとに伊豆半島ジオパークの概要や国内他地域のジオパーク、国内のジオパークに認定されるまでの過程などを調べていました。学期末には班でジオ新聞を作成、2学期からは環境問題、火山、地震や災害といったテーマに沿った内容から課題を決定し、児童が個々に研究を進め、3学期末にはまとめたものを発表、という学習計画とのことでした。

打ち合わせ時に校内図書館のジオパークコーナーのお話を橋本先生から伺い、図書館へもお邪魔しました。司書の先生のお話も伺い、配架にないものや個々に配布可能な資料などを、推進協議会から事前学習の前に手配しました。

このように、事前授業以外のご相談も随時承ります。教育担当までお問い合わせください。

宇佐美小学校の図書館には、司書の先生による『ジオパークコーナー』があります。

伊豆半島ジオパークだけでなく、箱根や大島など隣接するジオパークや関連の新聞記事などの資料がまとめられ、児童が自由に閲覧や自己学習ができるようになっています。

## 郷土下田探究～下田のよさを紹介できる人になろう～（下田市立下田中学校）

下田中学校2年生の総合的な学習の時間では「郷土下田探究～下田のよさを紹介できる人になろう～」というテーマで学習に取り組んでいます。

自分のテーマを決めるにあたり、今回は伊豆半島ジオパーク推進協議会の方を講師にお迎えして伊豆半島の成り立ちや地層のでき方をスライドや教具を使いながら分かりやすく説明していただきました。

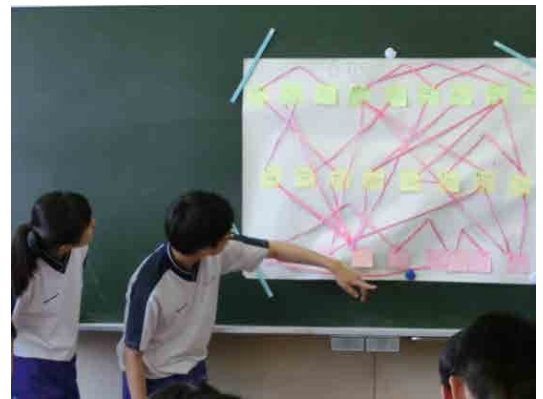
生徒たちは1年生の時の理科での学習と結び付けて理解を深めることができました。その中で、海底火山が噴火した時のマグマの様子をガラスとバーナーを使い再現した実験に生徒たちは興味をもち、目を輝かせて実験を見つめていました。

最後にグループで下田の特長を「土地」「動・植物」「人の営み」の3つに分けて考え、3つの関わりを結び付けるグループワークをしました。その活動から、これからの下田について守っていききたいことや生かしていきたいことなど、深く考えることができました。

7月12日には、下田のジオについて調べたいグループの生徒たち20名は伊豆半島ジオパークのジオガイドさんと共に、学習ジオツアーで実際に下田の不思議を見て、触れて、感じる学習をします。その体験を発表会で、他の生徒にどのように伝えてくれるのか楽しみです。（文：下田市立下田中学校 森）



グループワークの様子



各グループの結果発表

### 総合学習を終えて：生徒の感想

Y. Tさん

下田がどのようにできたのかや、伊豆半島が本州にぶつかるのに沢山の噴火が起こってできたということを詳しく知ることができた。

また、なぜ伊豆には地層が見えるところが多いのかも分かりました。

歌川広重が描いた絵と現在のその場所の地形が違うのは、土地が隆起して起こったものだと知り、面白く思いました。地層のでき方も黒と白の砂を使って見せてくれ、イメージしにくい地層のでき方も分かりやすかったです。

下田の歴史についても学びました。ディアナ号が来港しているときに大地震があったことは知っていたけれど、被害の様子や下田の人たちは津波などの自然相手にどのような工夫をしてきたのかが分かりました。津波からの復興が早かったのも下田の人たちの頑張り、この土地の石「下田石」があったからでした。下田のことをいろいろ知ることができよかったです。

T. Yさん

伊豆の自然が伊豆の経済に影響を及ぼしていることが意外だった。安政の地震の時に幕府から復興の援助をもらったのは、伊豆石があったおかげだという話があって驚いた。

今でも火山による温泉や海などが観光で使われ、下田が潤っている。また、伊豆の成り立ちがプレートの動きに関わっていることが分かった。地形の話は理科の授業と結びついてよく理解できた。

伊豆の石の特徴やその原因が実際に実験をしてくれたのでとても分かりやすかった。その伊豆石が加工しやすいという話を聞き、伊豆石にとっても興味をもち、自分のテーマにしたいと思った。



ガラス棒を使っての  
水冷破碎溶岩実験

### 編集後記

今学期の出前授業がひと段落しました。担任の先生をはじめ校内、教育委員会の指導主事の先生や事務局の皆様と、それぞれのお立場での考えや今までの経験など、たくさんのお話を伺いました。記事でご紹介した担任+司書の先生のケースなど、子どもたちをとりまく人々が連携し、少しでも良い教育をと日々取り組まれているお姿がとても印象的でした。児童・生徒への指導の前に教員や関係者向けの研修を計画したいというご要望も頂いております。今後もいろいろな角度から皆様と一緒に勉強し、お手伝いをしていきたいと思っています。（事務局 内藤）